NIE実践報告

1．タイトル：☆新聞を読もう!～発表する力をつけるために～

2．学校名

大阪府大阪市立天満中学校

3．実践者名（代表者名）

松本　亜紀

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　3クラス　102人

6．単元（本時の学習課題）名

「主張文を書こう」

7．目標（狙い）

メディアリテラシーの力を身につけ、自らの意見をまとめ、相手にわかりやすく発表する

8．評価の視点

複数の新聞を表現の違いを見つけることができたか。またそれを他人にわかりやすく伝えられたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「メディアリテラシー」(三省堂) 4時間　「意見文を書こう」7時間　計11時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)「メディアリテラシー」を読んで、メディアリテラシーとは何かを知る。
(2)「メディアリテラシー」の要旨をつかむ。
(3)同じ日の新聞5紙から自分の興味のある記事を選ぶ。(同じ内容の記事を5紙分選ぶ)
(4)新聞によって記事の書かれ方、見解の相違を見つける。
(5)ワークシートに記事の概要、見解の相違点などをまとめる。
(6)記事の見解について自分の意見をまとめる。(発表用原稿を作る)
(7)他人にわかりやすく発表し、自分の意見を伝える。

〈留意点〉
・昨年度取り組んだ、メディアリテラシーについて、自分の意見をまとめられるようにする。
・正しい日本語、文章の書き方を学び、相手に伝わる文章、発表ができるよう、聞き手側に立った立場も考えさせる

11．児童・生徒の反応、感想・意見

1年生のころに比べると、新聞を読むようになった、という生徒がかなり増えてきた。また、記事の選び方についても、政治や経済について関心を持つ生徒が増えてきたと実感した。

12．成果と課題

昨年度はグループで意見をまとめるという活動であったが、今年度は自分の意見を自らまとめ、発表させたので、苦手な生徒には放課後や休み時間を含め、かなりの時間を費やした。しかし、費やすほど、文章の仕上がりに自信を持ち、発表も堂々としていた。メディアリテラシーという点では意見の相違や見解をまだつかみきれない生徒もいるが、正しい日本語、文章の書き方をしっかりと理解し、それを実行する教育は今後も引き続き行っていくべきであると感じた。